Nagoya University Library

W
911.145
S0

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
1 / 45

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
100607252 / 45

Nagoya University Library

60725
911.145
51 50

かゝるかりといへの心を明まゝ月と花の名にたれたる
心は月とむかしのなりし海にめくらかつらすれ
月花のおりしるきなるしまをこすてゝ帰る
初に月花の名はたゝむかしもなりしいはいの
ちるといふなりけれとし

新参
薄くこき時過ぬことりの雪の花に沮迷ふ雪の村消
心は雪のはゆく消ふる而はみとりこゝへ初く
消ふる詞ニのはことりさすきこゝいはし昭おり
雪城みるまゝにて毎くく消ふる詞のるこゝあり
まれといふ事移し

武子内親王

花薄まゝ露深ゆるおして詠しおりふ林のさかりを
いはりいうへてこゝにむ薄憐にいはふ秋は俺かりなり

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
3 / 45

Nagoya University Library

新古今

[illegible]

新古今

[illegible]

新古

[illegible]

家隆

名古屋大学附属図書館所蔵・神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
4 / 45

Nagoya University Library

ぬ風のかれこ見んとうらしれすに花なれ
つれなくとぬすこさそ花とはけて花くとうし
むすこりなとゆとはいりの山まそこりなと山
りのけに花同まこなてこれ淋しさ流道所
なれはけに秋ふまあへかうしたふく凡っ
わっ云紫し

前世

我立は屋の村萩うかれて人を花並に林のりの菅
こうろは萩のうかれ月の末かさこれの
時花九人はもあはぬまあきこいてわっ
方と花あきこいてこ流命やとりし
消けやとおりひまつふこしさうれ
かうの一しはうさすなり

並結

新世

里はあれて月やあらぬと此て花されば浅茅生まころ花横
心を里は浅茅のいとあれいそ菅を花ふ
いちうに花なし月さへ花のかりしてよろ川
悲しき秋のとりあつめうちまなれ体をは
ころに花ノ人ふれなれとし月やあらぬと
月もかなりうるまし つきこやあらぬ者や
もしれ言はとれり

貫之

後撰

八重藤心の内まこ一あるまいは花見まゆるむかうち花は
心を俺人の藤のはひかりうち氣まこすりぬて
こうろ心のうりまこ事れこ上けまも花こ
つぐきこいとるこ花をされなり花は見ろ
花栄花れかうなまいはし八重藤も

名古屋大学附属図書館所蔵 神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
5 / 45

三月紀といひもてあなり三つも俗人のす
こゝのさぬこ
今ゆとて分ばかすべきこ山里にあまりしゆるに華は月は 仮成
心は伊勢物語の水 宿 ゆとめてむの方をとれり
よろ川世中まあり俗てせきふく身をかく
さむとおもふこ三つるまゝのなりのともい月
いりわなりつきかこの月あまりしさるく
おりしあれいわるなまいる合なりと述懐
三つる心こ対まこのうこゝろすこ
こゝひなしとこ
俗成云なり
新古 晴まはけの拠をはけれ閑元地てきかはの青かな 仮成
心は孫兄の拠をはじまりはけるすきこすとゝ
とりて 四世 とのれ又はわる身はるをもかつりこ
生死の一大事をもおりふへきまこ三つるまさい
なくていふこ孫きあはりしてすさこう
ふと乃かなしはれも中くかはの青元うゝ也
おなり詩まも孫兄をすれるれはなりは
あはせしてといつるまれ作なりつけのおつ
同おこ
あ同紀のよつけるもあはれなきこ孫ありとおもふまゝ 仮成
心いあかつきの孫兄成心 必衰 裏のるはなりひ
この 四世 のはるにあ孫を旦ひあつあこう 折
三元よつあるはうら晴こうさへおりこう

Nagoya University Library

あはれなる事しなる花様なりいはむ花
の様なりし

むかしみし人の心かくやまなれわすれぬたのみなりせと

心はかはりてやとはかはりても我もおもひの
ふりぬるをいかゝはかはらむ物の内は
かはりて涙の袖をひてまつはみゆる
物なりけりとしわかれのものをむかふ
ふかきとしまゝ心のふりすくはいつもこゝろし
となり心はかはりてやとは心のかはるまたなり

露顕意の心也　信成

新古
詠文花

花もちるもちぬも若の人となりきい

ゝはも橘をたしとふりて夜きこゆ
ぬしなくてまつ身をおもひてまれも強くすく
たへときなるめさいおもとえてしらまれと
おもひおもむとしれの後先ころちおつ
こわきゝ人はむかひえいつれまれい
道まてれいはひいてもおまちも心し

思ふつき人は猶え故宝れたもほ人庭の春ら花
心はちりくらめいき人はむ雲をのきころま
はさ庭のさし若もしなかゝれとも橘なり
昔の人はのこさことれ　宮内卿

あふ坂や未来のもとも嵐れかすむ関の松もと
たゝのとをし打坂の花かくあらしいはりまえ
まけしもてつまるを松むてとうれいは文

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
7 / 45

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
8 / 45

なりけれはあり二てくなくは曲あくまし
きにむをひくて見しあくぬさ奴なの時
のはかりのゆうなれは是見ますれかくこと
さそこれむをふ見うれしといありあり和尚の
仲毎しは法京極原三の道といひなにはよる
つけて見こゝひまれなりんるれはあれ見又
おまれなりあれなれはおれしめしたり見
おといりしと心しおりひおれなりて来と夢
かくまさひまれなりけれはあり浮京極原
うをさせたるひてつきのとしの神気
目すし

わの意はいぬはりれ雖行は芦代恵しのやの下に付け
わの心の下にくはおりひのすし篠夫と思
まかよりして立し芦と篠内おのゆるれ
剥したりし

楸おふ行山陰まのひつ吹事物と杜の神の秋
これ見桐の木はうりなり楸おはしき葉の
度まゆはこても深しく又杜の秋は葉の
見るきこゆに如きこゝもりし紬深の宗
し山陰は杜氏のちんつ立すし

花の葉はあはしきり葉立さしひ見さへ山楸
あはしきりといい花と花を一まりてうしをよ
こゝりて見ぬすし山ひはりは見
まこちたりし京曲三の之山高之峯の嵐

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
100607025
10 / 45

いさり火のもゆる光をみて芦やの里は飛ほたるかと
星のひかりとは伊勢物語にわがすむかたの
あまのたく火とあり いさり火の事也 其時の
眺望今のごとくにてなほいさり火のほたるのやう
にみえて云遣はされたる様也

鶯はすくかくのごとく梅の梢に巣くひぬれば林風に
はるかぜ梅の梢に吹て鶯の鳴ける氣色
雖まだ葉のなかりし時今は林風のさま
と咲ひらけてまた山すそのこの枝葉までに
曲ありけるとぞ

わが心いかにせよとてほとゝぎす雲間の月の影になくらん
心は、雲間の月まへにやかくひとつ郭公
まことに涙もよほさるゝ時分郭公一聲鳴過
さる時分にかへりさる風情なればいかに
せよと心いるをこそといへり

式子内親王
郭公そのかみ山の旅枕ほのかたらひし空ぞわすれぬ
そのかみ山とは神山といふ賀茂の事也 斎院は
かもの斎院にておはしましけるむかしを思出ていへり 斎院
流の時にて別当ほのかにいまだ時鳥鳴けるを
おもひて折にふれ猶おもひける事の
といふ心也 その神山といひかけたり

あやめ草ひくてあまたの沼なれば
かりま淀の真菰と猶聞えけり
あやめ草といふ花かつみの根也 淀は大和の
あすはまた花かつみの根也 田蓑は雅楽也

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
12 / 45

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
13 / 45

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
100060725
14 / 45

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
100060725
15 / 45

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
100060725
16 / 45

Nagoya University Library

地をいひあらせていはへ行ひとしめつきさ行し
わの意はあふをかさりは[illegible]たよ[illegible]しぬ[illegible]
まの立はゆく来にしらすけて[illegible]あふをかさりはなふ[illegible]
本云はわの立はいろをいそともこそすこし
あふをかさりとすみ[illegible]わの意はあ
奇はさとくるはなしめ[illegible]なれいや意よい
まて命にこのこなしはあふをかさりと
おもふこころさくもやつきこおて[illegible]の命の
消ゆるを詩心あいれ[illegible]
は行末も三ぬかへ又いせ[illegible]
分のなりつきとつくとなかめ[illegible]
あふをいはいふきの[illegible]
かくとこに[illegible]
本云は云[illegible]心はへのまなあひん
をといへともけてあいぬなるわかひ[illegible]
といはむをかくなをかくなりしろきと
いろといふといろといふといふれ相違なり
けしこへ[illegible]のさして[illegible]
をとそしにむかひといふ
二をのねていつり
源河瀧は心のはやいれは三つ三かけてせく神なれ
心は人の心はけくまけしきを瀧は心を
されいは人の心の三月れぬるまるこそ河
は神をせきとしめこれ河をつひして

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
17 / 45

Nagoya University Library

瀧川といへり

ふめとき淺ちか落ち妹けて春の葉ふりしく君のかひり
枯うけていひなかくらの思うをとりし
心はふめとさし云此葉はかれくす枯と
こういひしまうかねといあらしなくなり
てまう君は淺りのいらとあれそく春の葉
さくちりさひて物悲しきこし者は枯けて
ていむしとの葉のみんし又わ君は
道をなれまれのこうともおりひこうし
すくはおりしろきこうし

都れ月をあれ都ひいねるをあらぬすきこ
心は都のうちは月と雪とにしてなくさ
さめこしま又猿の雲れ葉桃の地に成
こひ月此なし代分ありしこととりて雪は此
都れおりしろきとおりひ月は物のうすれ
いあらぬと云心こころあれは都しろきと云
あれしすきこいなくさこのるし
よふまれこ見そや屋こなんろしきや言葉此山の巻の言葉
心はかくおいこうきこ山れて言葉のおりしろき山
されは巻のうちやきとうまりこておりしろ
くやてかの山いりてこけやとおりしとも
このこさやまうれよ思そしろ之のぬ
はのるしをとうそうかしこそとひまうや
とおりしとまやとなきくうれこうのる

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
18 / 45

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
19 / 45

Nagoya University Library

人をあはれて別かくしけさ迄やすらひ
てかへりまわり道をして時は夜をかく
すかりしきなりこゝろきき心に心かく
ともさわり心かくこゝろひて夜をあし
てくゆしきまし

ゆきて頼れなる山人と成て夜へは宮木なりけり
山家といふ題し中ゆく住て水はひ
きこ雲の風雲はけれ身は影なと
となりて心すゝ無しくて月ゆと
道しまは更に頼のたりに住すは
抱れかすれ更に遠されは頼のなはこの
宮れにあらをてい一回心をなきこ宮
木こといへり神行の頼まれ月を氣の行
あはれ見ん

あはれ見けり春かゝる山に歸山夜一は見れ下まつ見ん
堂境詩意乃題こと也とさかしよりこゝね
見てとひて歸る人のやれ余見とこの
めてかへりまはすれ行まれ物なれは
夜へともなきこゝろを見て歸る人は又見ん
事月日をつきまし歸山は名和之雲
はゝろゝといひかけて云し

こけさ狸と夜一むに見て更に青を思ひ一ゆん
思うへし一むに萬世の言は二けさ狸を見成に分る
はしら大に秘すれ心はあこりに思うへし一むに
萬のしけさ狸へとなりと云い雲はあれ也

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
20 / 45

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
21 / 45

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
22 / 45

Nagoya University Library

七夕のたろもの事の心にて嫌きなかれ九秋の神風
わかせこの夜のすれと嫌きなしうらめしき雉の袖
今はかりとゝりてゝあれ七夕のあふの風を
思い心にあらんれ嫌きこそあれとつる心之
秋られい芸藝の山のやまにはうけはりまゝ分れ
しきはけはりいうつゝあはりのまゝ芸藝の
山なれい矣いかはりましきに神さへ矣付
程に秋の所のもかみしも事こうけりはり
乃ゝと藝ふめつしあれよ
橘の花ちり星のりゝ雲まるかれはしまのあけ
心は春のあけはの家々の風楽とも心を
とまりて夜を成めれとて面白いはりの
あけ石の之三かりみ橘の花ちり星のりゝ雲
乃ありさぬけるいいむかられて宮沢道明り
面白まはしめて春のあけ石のと思ひ心を
秋きわれはめあしといつり　元の月の
もりかりみ稚元の文を通るなん御来も知ぬ月の光の
この今心得もつしまゝしてすきなんり
出をこしとつけてみる稚元くまゝ通ほし
光陰となけられ　もりしと立てすきし
こゝに事をゆくまはいけまそあれ
こゝあれいふ心　こゝろの月も光陰
乃ゝ之光の今なり
わの君に秋よしのまゝ春しいいにはかりしと所も社妻

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
23 / 45

Nagoya University Library

心い悪れ前へこの乃わの者い君乃宿へまり
おりふ人のうしのへおりひ入とわの者とと
はまれ花おれしやうまゆまとおこそ
うのかけますむの又い地のかけいりいれ
花同ること九今いとていとひいそぬり地
なしい事なし周花行楽已と云前遊
やまゆれ春乃りの菅乃花れいりあひのかねに花ちり
この前大に心得かくしまし山家のかね
桜れちりに花れ枝のけ入らりかねのひ
うにちりこしまれ先前の面もさそい
心は山里れ春のりのくれと云前れ内
さくにいさもつかぬ袖の面白なれい更に

あと花前に乃へかくさきさ面へぬるなれ
よせきさとれ春のりの菅さ面しつきこ
ら風楽ここれを別にいいく一向ら曲
かけおふましさ思にあくくとそこの
場的といつり入あひのかねに花ちり
あちといつりこれいのといふい乃字にそ
赤とまふそ(け)ちり前に此前別に手を入て曲な道
おりひおまりの里人にことにむ伊最遠の雲い面
初月後恵の花に立むといちれむり
赤に此人のうとくらねいやうそ桜をる
つきなに赤にとりましてちつこにふる
ちりおりふあらりの里人にあひしく何と

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
24 / 45

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
25 / 45

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
26 / 45

Nagoya University Library

Nagoya University Library

遠きなり衣は今人の聖なれり
事にあるのあふ事のさしとなり
かしなりあて席をくさらう云ふ
海邊は意の心世の縁に二人の海士と
云つりつこさやう云ふ（ぐりすあさい世とまたれ
のうさおもれい浮）

蓑みてはしかられたるとは云事を掛るゝ掛さ
心むしかしたるを掛のたるとは云事のあるを掛る
鳥はれいまれはわかりひとたてれて
かるしこさあるまりくしさくして別る
さしてをあといふ心し蓑をそはといぬ
さてさらうとは云心なり掛のたるを蓑

蓮葉はへいつれなきうる社ぬあかひいはしと云し
はしうあり男は女のあひはしりさ
いくを男はあかるはけれは女のりとり
うしみていひとこ世あれは男のあり
なり心はうへいつれはしてあらかはしまして
庭はあらかはしと云心しいむとなれは
男のとうなきさあはあまとろぬ
心なり蓮のうるは貝のつくなれはあら
あかひとまへてなり水邊の葉はい
つれはうしはかひつくし

蓮葉のまいれ人はおりふれ世まは憲法の中まは
人の蓮の姫といいと云なり立法といひつこ
好のまゝ人とさ面くはおりへしもへい

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
28 / 45

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
29 / 45

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
30 / 45

Nagoya University Library

なれはもまた雨をなりしろはれはなれ
ぬれてきなり未詳は面をとくてゐるれ
はこゝす面をもとめきの字を通はしていつ
あいつ様すくろの薦つのくろは外立なるむ顔
しまくろ此薦名くの様あれはもやけの
こすきこのすこの父をてくろきこゝ
その中よりはれくもおりのこさしの
いさむすこゝらあはむといふ立こゝはり
事あいつのあふこの事
まあれはまはりおみろ石上めつしあ山面なれ
しらむ大事こゝ心はまの事れなれ
とるく面白時なるの文を見渡すは

はやかつすきこ面新立ひて面白みあり
めつしあるまきといふ姫まき田の事こゝ石上と
はあるむすこゝ源氏よいうのこゝのかく
つらは新ともとあるは姫まの新事こゝ
勉当しらの心あれ他は別事一しとうみる
地中の地毎に面白物新あるすしとう
佛は様の花をこそさつれわの後のまを人とふ
見は源氏に無ほふ実は紫の上の様すれ
ましさす紫の上かくれ無ふ時すほふ実
一出ゆひ云に此ひのまくれこゝけひ
と様をまとり通の形見に見ろ面と又通
ととひ様をおりて佛あるうれくに

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
31 / 45

Nagoya University Library

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
100607725
33 / 45

なりあらしいあらんとこそ事なりけい
のあい趣あの国し
春はたし朝ゑまゝ方さはおりひまつゝ二ろ心なる
此三の心あらいしこれも二所心なるとあり
所心得ゝし二ろ心なきといふなはなり
思ひあるあふひとそのまゝ引結ひかりねの好き此家の暝
これはか茂の祭の時おふひを抜(いろきの末まさしとなり)て二ろ心なり
人家あふひとさしくるに二所なりしすりし
これは祭の時分なりしろきこまともと思
す家ゐるれはかゝりかり祭をいろいます
出んとし式二所親王のその神山の様
抜とあるけしらり同なし

田霧の後冬のあり田のうねの様に一むら薄一束者うを
う祭の節はあふミの国し田のうねとうけこ
ろしふひのこうし冬のあり田此面に一むら薄抜
立て淋きし田霧さへうり鳴ふり 以京
京法道所なりされは一むら薄一束者うせと
いつり此奇連歌の作に取用すしとて
家隆の言し

大井河井をきこのあれわらはに早はたのめし(たのめし)まん葉なりやはあぬ
恵の言し大井河は後にくれをつこてくる
すしこれは葉をこのこてまろ所しまくらい
此はまれなりまるくまるくを待てこの
葉をこのむるを木のくれまこまう為

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
35 / 45

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
36 / 45

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
37 / 45

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
38 / 45

と桜まて見て心尽しの事をもいのちとし
あはれなり
浅茅か原とハ一向家あれて茫々たる草の中の月
也言心ハ古き家をあはれひるなり
月秋を心をとめし人ありし宿は
さらてもあはれなるに月のみやとりし心
されはこそ花と月のあはれことには
かはらぬ春の面影の風景遥
路も秋の月をれとも心のこゝろ
うへの心と云ふ心と二つある歌の心
なりけり心を入て見へし
照まさる

かのひとや秋のつかの月秋の人も云てしまれと也
蒼茫河ハや渡かねて云つたう人も
心とものもありし昔たちの縁かあり
としつもという昔のあしの文ならの縁也
湊風は三つ立波の立縁に年経て古き歌ハ
二ハ河波とおもふけく立縁の渡の由縁
ましてとして見るなと古き歌成るそとひき
やかくと見えてし
松
幽河のあさかはまつはたとこの堂にいりつる
わさかくるとも河の縁にれとは本の堂に
みの縁の也かよりていつりあるやる
また浅くなりぬとゆき

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵 神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
39 / 45

陳和遠訪直し

数なるぬ方をさらに川の細代にはおほはれはをもつ事

世のことはつりしらし細代といふ事を

とりころしひしやなれやうまうしたれへ

負はりとりしひはといふ事のうまし歌奥

と云しうれとぬねのうまうしてはとも

すくすと云つりしまあらそおほくはねの

過ちりすと歌くし方をうひとうけらし

花なるして只此来は戸をけて旦ふ心のおくし三葉の山

よりの園は花ゆしまうれ又ふしれは

花なるしてうしといつりけて旦ふといふ心さ

すまし来の戸の縁し心の奥ろと面白

ことはけらひしとも

来は戸をふはれむ花はまもおくはあれ詠てはなうらめのわ

是は世を捨て山のきき柳まは花の咲ら

とならめのそうかくの言のなりひおくして

なほ花かけ世は夢柳すれはこの花を

なりもりあし詠めてはりれうとあし

やしいつりおほ花をうけり心はおと

ろきたる心なり

おわくす渡方の橋のうまうしに小夫渡ふ

道二溝うろしふ夫溝ゆり同人をや立まうぎ

とりけり如今は心はうろしかみといち

いさこそ夫しおくり道ゆりと我人をも

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
40 / 45

Nagoya University Library

[illegible]

小倉山秋の哉やの哉は[illegible]

[illegible]

秋の月

[illegible]

[illegible]

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
41 / 45

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
42 / 45

Nagoya University Library

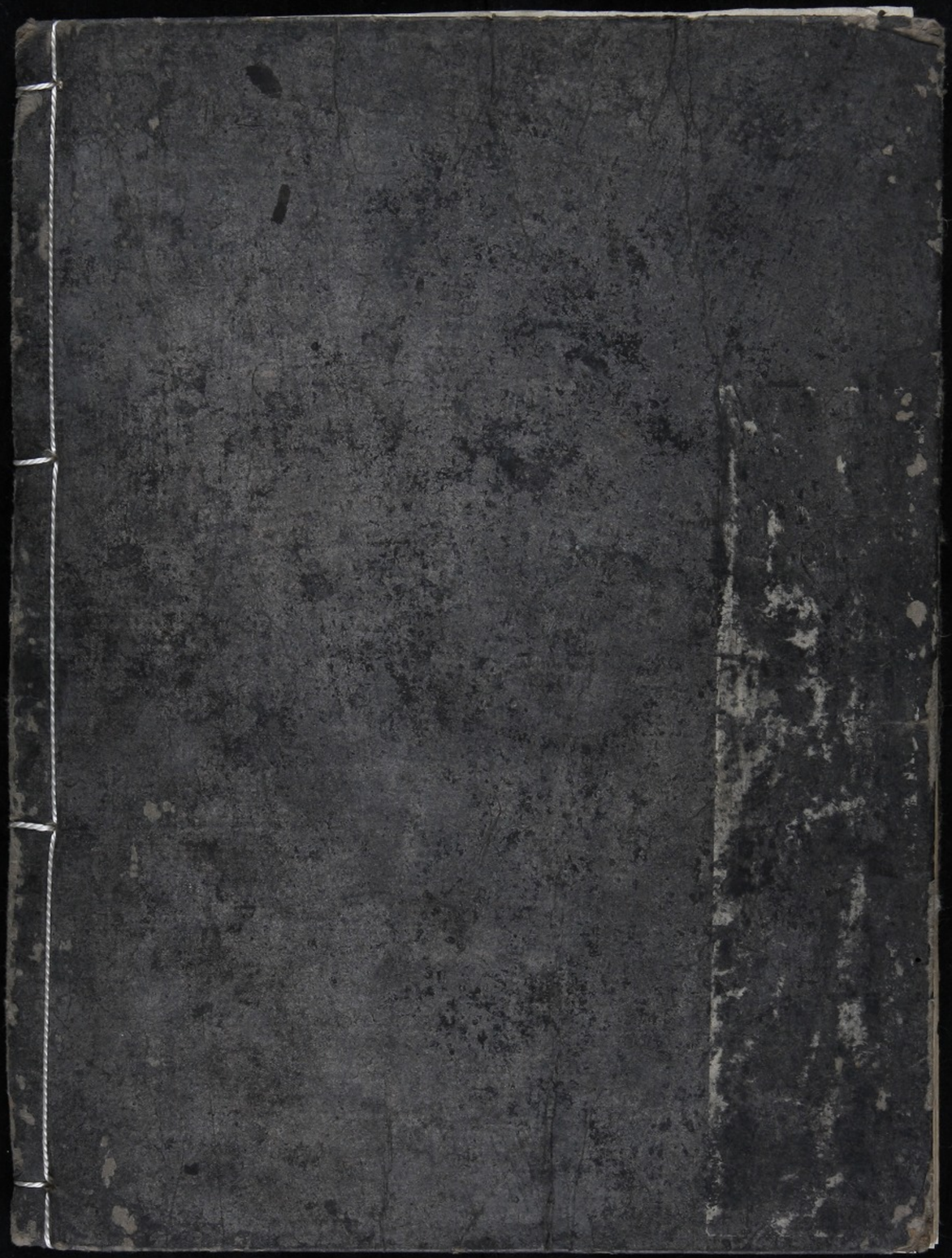
神宮皇學館大学
32353
昭和20. 9. 15
圖書

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
43 / 45

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
44 / 45

Nagoya University Library



名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「宗長秘歌抄」
10060725
45 / 45